

needs 非 IT 人材でも自走できる DX 人材を育成したい

クラウド基盤を活用した全社 DX 環境の実現

会社概要
企業名 : 株式会社ミヨシテック
事業内容 : 空調・給排水・電気・ガスなどの設備工場の設計・施工、保守、リフォーム事業
従業員数 : 124 名 (2026 年 3 月 31 日現在)
所在地 : 大阪府寝屋川市石津元町 11-22

背景
既存のオンプレミスシステム(※1)は、OS の制約や、同時入ライセンスの不足といった運用の不便さがあり、入力ミスや業務の属人化を招いていました。また、社内に IT 専任者が不在で、改善がベンダーに依存していたことも重なり、業務拡大が進む中で「デジタルを扱える人材の不足」が深刻な課題となっていました。
※1 オンプレミスシステム: 自社内のサーバーや設備にシステムを設置し、社内管理・運用する形態の IT システム。

IoT を活用した課題解決の内容

ノーコードツールや RPA など非 IT 人材でも扱いやすいツールを導入し、現場で業務改善に取り組める環境を整備した。あわせて社内研修や勉強会、説明会を継続的に実施し、現場主導で学べる仕組みを構築。さらに生成 AI や RAG(※2)を導入し、社員が AI 活用スキルを自然に身につけられる環境を整えた。

※2 RAG: AI が社内文書を検索して内容を反映した回答を生成する仕組み。

課題

- ① IT への苦手意識が強く、最初は現場で DX が浸透しなかった。
- ② 日常業務を変えることへの抵抗が大きく、導入初期に理解が進まなかった。



解決方法

- ① 段階的な説明会・部門別勉強会を継続し、現場の不安を解消しながら浸透を進めた。
- ② 業務プロセスを見える化し、社員が「自分で改善できる」ツール環境を用意した。
- ③ DX 発表会で成功事例を共有し、会社全体に前向きな空気を作り出した。

特徴



■ 現場に寄り添った段階的な DX 浸透

- トップダウンとボトムアップを組み合わせ、説明会や勉強会を通じて段階的に理解を促進。
- デジタル化そのものではなく業務改善につながる DX として浸透させ、持続的に推進できる基盤を構築している。

■ 学び合いと挑戦を促す社内文化づくり

- 社内 DX 発表会などで成功事例を共有し、部署間での横展開を促進。
- 新技術への挑戦を前向きに受け入れる風土を育て、現場主導で DX が進む文化を定着させている。



導入成果

- ・システム利用者が 90 名から 124 名へ増加し、全社的にデジタル活用が拡大。
- ・ノーコードツール研修 (14 名) や RPA 講座 (14 名) の受講により、現場で改善できる人材が育成された。
- ・業務の属人化が解消され、誰でも判断できる組織体制が整った。

成功したポイント

- ・経営者が先頭に立って DX を推進したことで、全社の一体感が生まれた。
- ・小さな成功事例を積み重ねて社内でも共有する文化が、DX の浸透を加速させた。
- ・非 IT 人材でも扱いやすいツールを中心に導入したことで、人材育成のハードルを低く抑えた。

今後の展開予定

- ・ AI や BI(※3)を活用した高度なデータ分析を担う人材の育成を進める予定。
- ・生成 AI と RAG 環境を拡充し、「全員が AI を使える組織」の実現を目指す。
- ・グループ企業への DX 展開を見据え、横断的に活躍できるデジタル人材の育成を進めていく。

※3 BI (Business Intelligence): 企業のデータを分析・可視化し、経営や業務の意思決定に活用する仕組み。